

# Cisco 200/300シリーズマネージドスイッチの Power over Ethernet(PoE)プロパティの設定

## 目的

Power over Ethernet(PoE)を使用すると、データを送信するのと同じイーサネットケーブルを介して、スイッチから接続デバイスに電力を供給できます。これにより、IP電話やワイヤレスアクセスポイントなどのデバイスに電源を供給するための別個の電源コードが不要になります。

このドキュメントの目的は、200/300シリーズマネージドスイッチでPoEプロパティを設定する方法について説明することです。

## 適用可能なデバイス

- SF/SG 200およびSF/SG 300シリーズマネージドスイッチ

## [Software Version]

- 1.3.0.62

## PoEプロパティの設定

ステップ 1 : Web設定ユーティリティにログインし、Port Management > PoE > Propertiesの順に選択します。PoEプロパティページが開きます。

**Properties**

Power Mode:	<input checked="" type="radio"/> Port Limit
	<input type="radio"/> Class Limit
Traps:	<input checked="" type="checkbox"/> Enable
Power Trap Threshold:	<input type="text" value="20"/> % (Range: 1 - 99, Default: 95)
Nominal Power:	180 W
Consumed Power:	0 W
Available Power:	180 W

ステップ2:Power Modeフィールドで、使用するPoEモードに対応するオプションボタンをクリックします。

- ・ポート制限：スイッチが提供する合計電力量は管理者が決定します。
- ・クラス制限：スイッチは、インライン電力供給先デバイスが要求する電力と同じ量の電力を提供します。

ステップ3：TrapsフィールドのEnableチェックボックスにチェックマークを付けると、スイッチは電源出力があらかじめ定義されたしきい値を超えたときに警告メッセージ(トラップ)を送信できます。

注：トラップを使用する場合は、SNMPが有効で、少なくとも1つのSNMP通知受信者が必要です。詳細は、『[300シリーズマネージドスイッチでのSimple Network Management Protocol\(SNMP\)通知フィルタと通知受信者の設定](#)』を参照してください。

ステップ4：Power Trap Thresholdフィールドに、トラップメッセージを送信する原因となる電力制限の割合をパーセントで入力します。

Propertiesページの下部に次の情報が表示されます。

- ・公称電力：スイッチが供給可能な総電力量。
- ・消費電力：現在PoEポートが消費している電力量。
- ・Available Power：引き続き供給可能な電力量。有効電力は、公称電力と消費電力の差です。

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。